

インナー大会 プレゼン部門 2019 専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

大学名 (フリガナ)	学部名 (フリガナ)	所属ゼミナール名 (フリガナ)
フリガナ) ブンキョウガクインダイガク	フリガナ) ケイエイガクブ	フリガナ) マワタリ
文京学院大学	経営学部	馬渡ゼミ

※大会申込書に記入したチーム名から変更することはできません。

※パワーポイント内に動画を使用している場合は「有・無」を記入し、「有」の場合は使用するスライド番号も記載してください。

チーム名 (フリガナ)	代表者名 (フリガナ)	チーム人数 (代表者含む)	PPT 内動画 (有・無)	動画使用 スライドページ
フリガナ) オデカケハン	フリガナ) オク ケイスケ	7	無	無
おでかけ班	奥 敬佑			

※当日使用する PC、マイク、レーザーポインター機能付きワイヤレスプレゼンターは会場に準備しております。

これらは個別にご用意いただいても大学施設・設備の関係上ご利用いただけませんのであらかじめご了承ください。

発表時に使用する成果物 (例: 商品化した●●、店舗で配布したパンフレット、調査時に使用したアンケート)
無

※成果物の配布は、『禁止』とさせていただきます。

研究テーマ (発表タイトル)
「社会鉄道へ」～地域鉄道存続への新たな試み～

※必ず<企画シート作成上の注意>を確認してから、ご記入をお願いいたします。

1. 研究概要 (目的・狙いなど)

私たちの研究目的は、**地域鉄道の存続を手助けできるような新たなマーケティング展開を考える**ことです。現在多くの地域鉄道は経営が不安定で、平成 12 年から 41 もの路線が廃止になりました。しかし、地域鉄道は地域住民や旅客のためにはならないものです。そして地域鉄道を存続させることは基本的な社会的使命です。SDGs が重要視される今、社会問題を解決することで、新たな乗客を獲得し、企業イメージの向上にもつながります。それにより、**地域鉄道を地域だけのものではなく、社会全体のものにするために、地域鉄道から「社会鉄道」へ発展し、持続可能な鉄道会社を目指します。**

2. 研究テーマの現状分析 (歴史的背景、マーケット環境など)

地域鉄道は現在全国で 96 社あります。地域鉄道は地域住民の足、地域の経済基盤、移動手段の確保など、重要な社会インフラであり、その地域にとってなくてはならないものです。しかし、全国の地域鉄道の経常収支は 70%以上が赤字で、現在多くの地域鉄道が赤字に陥っています。地域鉄道には 6 つのグループがあり、観光路線か生活路線か、経営の安定性はどうかで分類されます。現在では経営が不安定な地域鉄道が多く、その原因は主に 2 つあります。一つ目は、過疎化と少子高齢化です。

地域鉄道の利用者の多くは学生で収入源は定期収入のため、過疎化と少子高齢化により利用者が減少して主なる収入源が減少しています。二つめはモータリゼーションです。モータリゼーションとは、自動車が広く普及し、生活必需品化することで、それにより地域鉄道の利用者が減少しています。

このような地域鉄道の現状から、私たちは各々の鉄道会社がどのような取り組みをしているのか調べました。経営安定性が低い会社の取り組みはあまり特徴がなく、せつかくの工夫も模倣されやすいことがわかりました。一方で、安定性の高い会社は独自の特徴があるといった共通点が見つかりました。経営安定性が高い地域鉄道をさらに詳しく知るため三社にヒアリングを行いました。するどどの会社も新規事業と情報発信力を求めていることがわかりました。

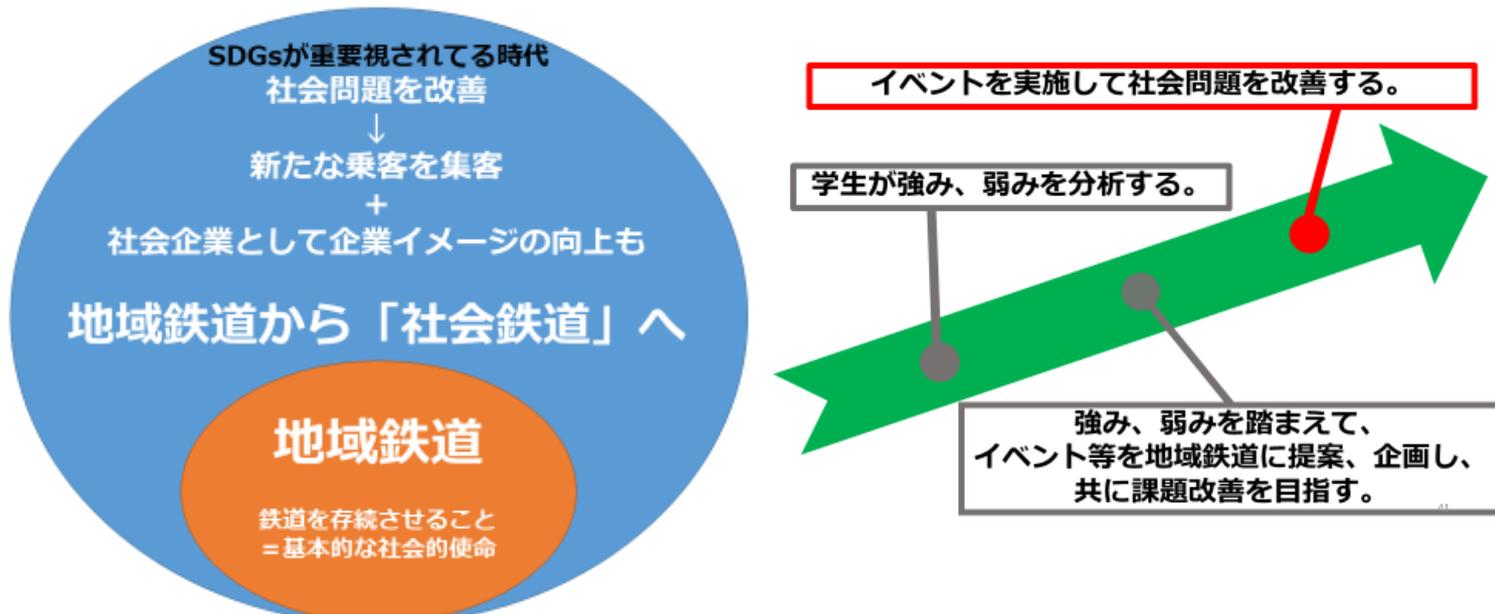
3. 研究テーマの課題

地域鉄道を存続させるためには、新たなマーケティング展開を考える必要があると私たちは考えました。その新たなマーケティング展開とは、地域鉄道と社会問題を掛け合わせることです。SDGs が重要視されている今、地域鉄道を存続させるだけでなく社会問題も改善することで地域鉄道から社会鉄道に発展させるプロセスです。社会問題改善に向けたイベントを実施することで、そのイベント自体が情報発信につながると考え、新たな乗客を集客します。そして社会企業として企業イメージの向上も期待できます。

4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

地域鉄道から社会鉄道に発展させる具体的なプロセスは、3つのステップから成ります。まず、学生がその地域鉄道の弱みと強みを分析します。その強みと弱みを踏まえ、それに合った社会問題改善法のイベントを企画します。その後イベントを実施し情報発信に役立てます。今回このプロセスの検証を小湊鐵道様で実施させていただくことが決まりました。小湊鐵道は、自然が豊かで地元住民との関りが深いです。里山づくりに取り組むなど、地域に対する思いも強く、昔からのものの価値を大切にする企業文化も持っています。

これを最大限に活かせる社会問題改善法を探ったところ SNS 疲れを解消するデジタルデトックスを考えました。さらに小湊鐵道は若者の旅客を増やしていきたいとのことでしたので、私たちは若者が多く抱えている**社会問題としてスマホ依存症**を取り上げました。そこで、デジタルデバイスから一時的に離れ、日々の SNS などのストレスから解放される方法である**デジタルデトックス**を取り入れたツアー提案しました。具体的には、**小湊鐵道のトロッコ列車を使いハイキングや住職のお話を聴くツアー**です。開催する目的は、小湊鐵道を知ってもらえるきっかけ作りと若者の旅客を獲得することです。トロッコ列車に乗って大自然の空気を味わい、景色を自分の目で見たりすることで普段デジタルデバイスに夢中で見えていなかったものがたくさん見えて小湊鐵道の魅力を最大限に知ってもらえることができると考えました。



5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

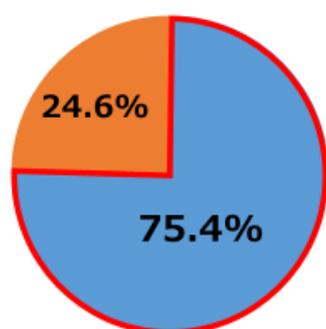
この研究を開始してから、論文や各鉄道会社のHP、学生へのアンケート調査などからの情報収集、各鉄道会社、専門家へのヒアリング、そこから地域鉄道の存続を手助けするための、**新たなマーケティング展開の提案・企画**などを行ってきました。地方鉄道の現状をリアルに知るために、メールや実際に本社に訪問しヒアリングをし、情報収集をした結果、地域鉄道会社は新規事

業を求めていることを知りました。さらに、学生へのアンケート調査で日々のデジタルデバイスの使用にストレスを抱えていることが多いことや、小湊鐵道の強みに適したイベントであることから、トロッコ列車を使ったデジタルデトックスツアーを提案したところ、ヒアリングさせていただいたご縁もあり、ご協力いただけることになりました。

そこで、日本デジタルデトックス協会様とのテレビ会議によりデジタルデトックスの知識やイベントを行うにあたってのアドバイスをいただき、具体的なイベントを企画しました。その後定員である学生30人の集客を行いイベントの実施を待つのみでしたが、台風15号の影響でイベントが延期になってしまいました。しかし、実際に集客できた点やイベントに対する学生へのアンケートで需要があった点から「イベントの実現可能性と有効性は高い」と小湊鐵道様からお声を頂きました。後日、班員だけでツアー内容を検証・視察した際に、駒沢女子大学人文学部日本文化学科教授でもある宝林寺の千葉住職にも、「デジタルデトックスは、これからの日本の重要課題」と評価を頂きました。

6. 結果や今後の取り組み

イベントは台風の影響で中止となってしまいましたが、イベントに関するアンケートを実施したところ「デジタルデトックスツアーをこのツアーに参加したいと思いましたか？ タイムスケジュール



■ 参加したい
■ 参加したくない

N=65

2019/8/14
文京学院大学経営学部
学生アンケート



「やってみたい・興味がある」という答えが多くありました。10月中

に開催出来るか小湊鐵道様に検討していただいています。イベントを開催することができた場合、実施後にアンケートを行います。

そのうえで、ツアー内容の見直しと改善を行い、次回開催の規模拡大に向けた情報発信力を探っていきたく考えています。

7. 参考文献

国土交通省「地域鉄道対策」 http://www.mlit.go.jp/tetudo/tetudo_tk5_000002.html (2019/4/20 にアクセス)

国土交通省「地域鉄道の現状」 <http://www.mlit.go.jp/common/001259400.pdf> (2019/4/20 にアクセス)

国土交通省「近年廃止された鉄軌道路線」 <http://www.mlit.go.jp/common/001235841.pdf> (2019/4/20 にアクセス)

「地域鉄道における再生・活性化へ向けた事例調査＜概要版＞」 https://www.jrtt.go.jp/02Business/Aid/pdf/02Aid_gaiyoH24chousa.pdf (2019/5/7 アクセス)

国土交通省「地方鉄道の活性化に向けて」 <http://www.mlit.go.jp/common/000024817.pdf> (2019/4/23 にアクセス)

銚子電気鉄道 <http://www.choshi-dentetsu.jp/> (2019/4/26 にアクセス)

GLocalMissonTimes「エンタメで生き残れ！銚子電鉄の諦めないアイデアフラッシュ」 <https://www.glocaltimes.jp/company/2871> (2019/4/20 にアクセス)

和歌山電鐵株式会社 和歌山電鐵の取り組み <http://www.tb.mlit.go.jp/hokkaido/bunyabetsu/tiikikoukyoukoutsuu/69shinpojiumu/290616/04wakayamadentetsu.pdf> (2019/5/9 にアクセス)

東洋経済 ONLINE 三陸鉄道は「震災から5年」でどう変わったか「あまちゃん」ブームに沸いた、あの路線の今 <https://toyokeizai.net/articles/-/108738> (2019/5/23 にアクセス)

朝日新聞 黒字化願い、クロジカ君 赤字続く三陸鉄道に寄贈
<https://www.asahi.com/articles/ASM2P5FPYM2PUJUB00F.html> (2019/5/27 にアクセス)

小湊鉄道 房総里山トロッコ東京日帰り里がえり <https://www.kominato.co.jp/satoyamatorocco/> (2019/5/27 にアクセス)

Verepo 【決算】智頭急行、2016 年度は 2 億 7116 万円の純利益(黒字)を計上 <http://verepo.com/chizukyu/> (2019/6/10 にアクセス)

のと鉄道株式会社 ホームページ <http://www.nototetsu.co.jp/html/event.html> (2019/6/16 にアクセス)

伊予鉄グループ ホームページ <https://www.iyotetsu.co.jp/> (2019/6/16 にアクセス)

津軽鉄道株式会社 <http://tsutetsu.com/> (2019/6/16 にアクセス)

いすみ鉄道株式会社 ホームページ <https://www.isumirail.co.jp/> (2019/6/16 にアクセス)

DIGITAL DETOX JAPAN | デジタルデトックスジャパン <https://digitaldetox.jp/> (2019/6/16 にアクセス)

読売新聞 「[ウオッチ・現場から] 貴志川線貴志駅 猫駅長パワー、客招く=和歌山」
2007/6/10 大阪朝刊

信濃毎日新聞 「はかま姿の学生が別所線沿線案内 上田女子短大」
2016 年 10 月 2 日

日本経済新聞 「北関東 3 県三セク鉄道、収益向上へ走る—— 5 社とも最終赤字、前期、燃料費高騰など響く。」
2019 年 8 月 3 日 北関東 41 ページ

瀬戸本浩志 「地域の活力を支える中小ローカル線」 (2007)

北村康悟 江崎雄治 「第三セクター鉄道の存立基盤 — 沿線地域と経営の分析から—」 2015 年度日本地理学会秋季学術大会 (2015-10)

高橋光斉 「鉄道会社とサポーターによるローカル線と地域の活性化 : サポーター組織の活性化効果と存在意義」
北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院院生論集制作委員会 (2012-03)

総務省情報通信政策研究所 「平成 30 年度情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査報告書 <概要>」
(2019-09)

叶 少瑜 歳森 敦 堀田 龍也 「大学生のスマートフォン依存, 社会的ネットワークと孤独感の関係, 及びそれらに対する個人特性の影響」
社会情報学会 (SSI) 2016 年学会大会 III-1 (2016-09)

<企画シート作成上の注意>

※本企画シートは審査の対象となり、予選会・本選の前に、実行委員会から審査員(ビジネスパーソン・大学教員)の方々に事前にお渡しいたします。

※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1 チーム・1 点提出してください。また、インナー大会終了後、プレゼン部門にご協力いただいている日経ビジネス様(株式会社日経 BP マーケティング)に大会結果ページを作成いただいております。大会結果ページにはチーム名やご提出いただいた本企画シートが掲載されます。

※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1~7 以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。

※本企画シートは、インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項と企画シート作成上の注意を含め、4 ページ以内に収めてください。実行委員会から審査員に渡す際は、A4 サイズでプリントし、4 ページ目までをお渡しします。

※大会参加申込み時点から、チーム編成の変更(チームの人数・交代など)は、「不可」とさせていただきます。ただし、チームメンバーの留学等やむを得ない事情でチーム編成に変更が生じる場合は、実行委員会(プレゼン局)にご連絡ください。実行委員会側で協議のうえ、ご返答いたします。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。

※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、版権の使用許諾を得てください。日本学生経済ゼミナール関東部会・日経 BP 社・株式会社日経 BP マーケティングは一切の責任を負いません。

※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先(使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など)を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合は同様に明記してください。また、Web サイト上の資料を利用した場合は、URL とアクセスした日付を明記してください。

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

※パワーポイント内で動画を使用する場合は、必ず「有」とご記入ください。「有」の場合は使用するスライド番号も明記してください。動画を使用する際の注意事項は参加要項に記載しております。

※成果物を使用する場合は、必ず企画シートにご記入ください。企画シートにてご記入が無い場合、発表当日のご使用を「不可」とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

↑ ここまでを 4 ページ以内におさめて、ご提出ください